

予 算 要 求 資 料

令和3年度9月補正予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名	新	バーチャル博物館推進事業費
------------	----------	----------------------

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

岐阜県博物館 総務部管理調整 電話番号：0575-28-3111 (内 250)

E-mail：c21804@pref.gifu.jp

1 事業費 補正要求額 15,000 千円 (現計予算額 0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	15,000	0	0	0	0	0	0	0	15,000
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

コロナ感染拡大防止のため、Web空間をバーチャル博物館と位置づけ、通常鑑賞することができない付加価値の高い映像・写真データを、デジタル技術を活用して提供する。

(2) 事業内容

ア 360度方向からのデジタルデータの作成・Web発信

- ・ 収蔵品 (恐竜、円空仏、土器、刀剣等) を360度方向から3D撮影してデジタルデータ化し、デジタル映像ならではの鑑賞方法として、上下左右のいずれにも自由に操作しながら見ることができる映像を、学芸員の解説等を付して博物館HP上やデジタルサイネージにより提供する。

イ ドローン撮影動画の制作・Web発信

- ・ 自然に囲まれた当博物館の大きな特色として、博物館の周囲に設けられている散策路「自然観察のこみち」がある。その豊かな植生や情景を、ドローンにより上空から撮影し、普段見ることができない視点からの動画を学芸員の解説等を付して制作し、博物館HP上やデジタルサイネージにより提供する。
- ・ 恐竜骨格標本の迫力ある映像をはじめ、館内のストリートビューをドローンによって撮影し、学芸員の解説等を付して博物館HP上やデジタルサイネージにより提供する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県が設置運営する施設であるため県の経費負担は妥当

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
消耗品費	150	設置用コード、スタンド等
委託費	14,850	360度方向からのデジタルデータコンテンツ作成委託、ドローン撮影動画の制作委託（出力装置、セットアップ込み）
合計	15,000	

決定額の考え方

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・ コロナ禍においても博物館の魅力を発信できるよう、web上でデジタル技術を活用した付加価値の高いコンテンツを提供するとともに、博物館内においても、作成したコンテンツを常設展示と組み合わせることで複合的かつ魅力度の高い展示を実現し、入場者の増加と満足度向上を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移	現在値	目標	達成率
博物館入館者数	249,375 (H30)		158,642 (R1)	200,000 (R6)	79.32%

○指標を設定することができない場合の理由

--

（前年度の取組）

- ・ 事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

--

（前年度の成果）

- ・ 前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

--

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価)	<p>○</p> <p>コロナ禍で外出自粛が長引く中、web上で博物館の魅力を発信することは必要性が高く、今年度から取組む「講演会、遠隔授業等」と合わせ、質の高いバーチャル展示を追加することで、県民のニーズにこたえる。</p> <p>また、作成したコンテンツを、博物館内においてリアルな展示と合わせて提供することで、常設展示を「迫力のある、楽しい」展示にバージョンアップさせ、入場者の増加と満足度向上を図る。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価)	

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 博物館は、毎年テーマを絞り、特別展、企画展を開催し、県民が持つ「新しいことをもっと知りたい」との需要に答えているが、展示期間は限られる。一方で常設展示は近年大規模な改修を行っておらず、老朽化、陳腐化している。特別展、企画展が行われない時期の博物館の魅力を向上させ、集客を図るかが課題となっている。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 博物館の使命は、「本物の資料」を収集・保管・展示し調査研究と教育を一体的に進めることであり、博物館のデジタル化を、来館者が展示資料の価値をより深く理解するための重要な手法として位置づけ、取組を進める。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由や期待する効果 など	【○○課】

